

お茶席の

マナー



初めてのお茶会

抹茶席・煎茶席

お茶会というと、「作法が難しい」「堅苦しい」というイメージがありますが、豊橋で春と秋に開催される市民茶会は、どなたでも気楽に参加できます。

初めての人はお茶会と聞いただけで構えてしまうと思いますが、多少なりとも予備知識があれば安心できます。この冊子では、お茶会における基本の作法を紹介しています。

持 ち 物



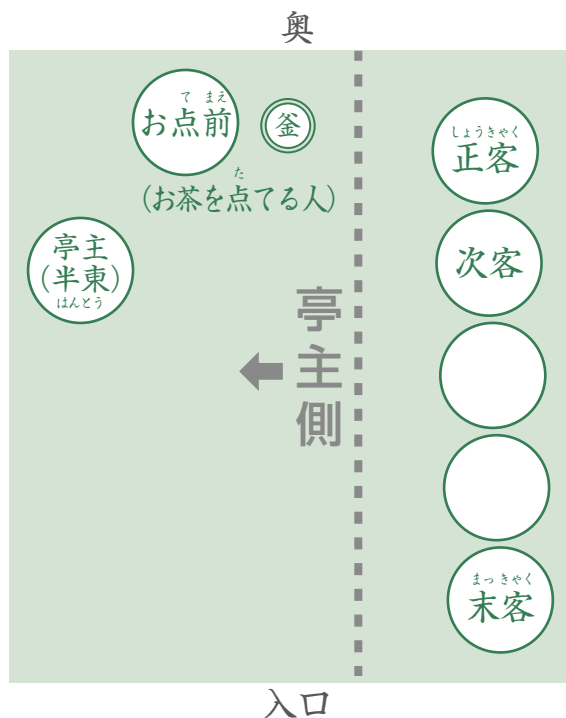
お茶会に出かける時に持っていくといいのが、懐紙と楊枝です。懐紙は、お菓子を取るときに使う紙。取り皿がわりにもティッシュのようにも使えます。楊枝は、お菓子を食べる時に使います。懐紙や楊枝はお茶の販売店などで売っています。

また、正式なお茶席ではお茶用の小さな扇子を使います。お茶席に入るときなど亭主への挨拶に使います。

抹茶と煎茶では作法が多少異なります。この後は「抹茶編」と「煎茶編」の2つに分けて説明します。

抹茶編

1 席入り



市民茶会では複数の流派が、それぞれお茶席を設けています。好きなお茶席を選び、順番が来るまで外で待っていて下さい。

お茶席は座る場所が重要になります。初心者の方は、先頭と最後の位置には座らないほうが無難でしょう。先頭は正客、最後は末客（お詰め）といって客の代表です。他の客とは少し作法が異なります。

席に着くと亭主が出てきて挨拶をしますが、先に正客が代表で挨拶します。その他の方も亭主がこちらを向いてお辞儀をしたら、一緒に頭を下げてください。

席に着いてから退席するまで 20 分程度かかります。原則、途中で入退場することはできません。

2 お菓子



▲次の人に挨拶



▲器を感謝するように押し頂く



▲お菓子を懐紙に取る



▲懐紙の角で、箸を拭く



▲使った懐紙は持ち帰る

挨拶が終わると、まずお菓子が出てきます。運んできた人がお辞儀をしたら、お辞儀を返してください。亭主から「どうぞお菓子をお取り下さい。」という言葉があつてから、お菓子に手を伸ばします。

めいめいざら
銘々皿（小皿）の上に一つだけお菓子が載っている場合は、それを懐紙に取って食べます。菓子器（大皿）にいくつかのお菓子が載っているときは、まず、菓子器を隣の人の方に少しずらして「お先に（ちょうだい頂戴します。）」と軽く挨拶をします。次に器を両手で持ち上げて軽く頭を下げ、自分の前に置き「頂戴します。」と亭主側に対してお辞儀をします。懐紙を束のまま出して、その上に黒文字（くろもじ箸）でお菓子を一つ取り、その先を懐紙の角で軽く拭いて元の位置に戻し、隣の人にまわします。自分のところで菓子器が空になった場合は、器を180°回して正面を向こうにして置いておきます。



▲お菓子を食べる

お菓子を取ったら食べ始めて構いません。この時に楊枝を使いませす。楊枝が無ければ手で食べても構いません。抹茶席ではお茶が来るのを待たずにお菓子を食べます。お茶と交互に食べるのはマナーに反します。使った懐紙は、表面の1枚を折りたたんで束の真ん中にはさんで持ち帰ります。

3 お茶

お菓子を食べ終わるころ、いよいよお茶が運ばれてきます。



▲表千家の場合は、時計回り



▲何口でもOK、自分のペースで



▲ふちを拭う

全員が飲み終わり茶碗がすべて下げられたあと、最後の挨拶があり、客は揃って退席します。

(この説明は、流派によって、多少異なる場合もあります。)

目の前にお茶が出されたら、お菓子の時と同じように運んで来た人にお辞儀します。次の人にまだお茶が運ばれていなかったら、「お先に頂戴します。」とお辞儀をします。それから「^{てまえ}お点前頂戴します。」と言って頭を下げ、茶碗を軽く持ち上げます。出されたときに茶碗の正面は、あなたに向いています。流派によって多少異なりますが、茶碗を少し回して、あとはゆっくりと自分のペースでお茶を飲みます。飲み終わった茶碗は、飲み口を指で軽く拭き、正面を向こう側に向けて置いておきます。お茶席といえば、茶碗を回す動作が印象的ですが、これには器の一番大事な正面に口を付けるのを避けるという意味があります。



▲飲み終わったら、正面を向うに向けて、置いておく

4 最後に

以上がお抹茶の飲み方です。ここに紹介しているのは基本的な作法ですが、市民茶会に参加するには十分です。また、作法にとらわれすぎることはありません。周囲の人を見ていればおおよそのことは分かりますので、まずはお茶席に入ってお茶をいただいましょう。何度も参加していくうちに自然と作法も身につく、場の雰囲気にも慣れてきます。少し余裕が出てきたら、お茶席に用意された茶碗、花、軸などを眺めてみてください。それらの道具類は、亭主側が精一杯のおもてなしの気持ちで用意したものです。そこから季節を感じ、また茶道の奥にある「一期一会」の優しい心配りを感じることができるのです。

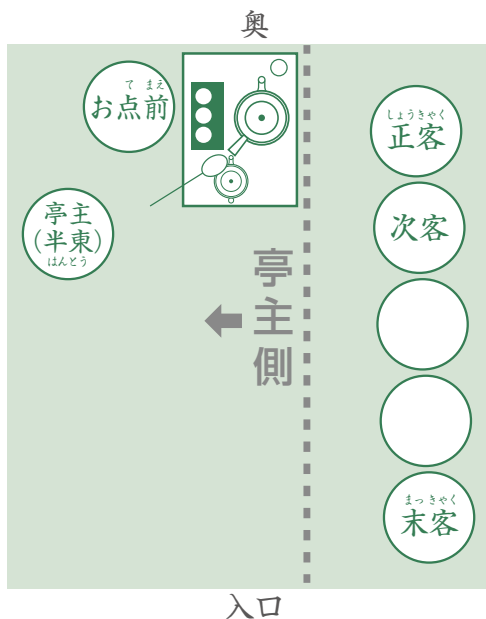
煎茶編

1 席入り

お茶席に着くときには、まず座る場所が重要になります。初心者の方は、先頭と最後の位置には座らないほうが無難でしょう。先頭は正客、最後は末客（お詰め）といって客の代表です。他の客とは少し作法が異なります。

席に着くと亭主が出てきて挨拶をしますが、先に正客が代表で挨拶します。その他の方も亭主がこちらを向いてお辞儀をしたら、一緒に頭を下げてください。

席に着いてから退席するまで20分程度かかります。原則、途中で入退場することはできません。



2 お菓子



▲運んでくれた人にお辞儀をする



▲隣の人に挨拶

亭主の挨拶の後にお手前が始まり、その間にお菓子が運ばれてきます。あなたの前にお菓子を出してくれた人がお辞儀をしたら、お辞儀を返します。

菓子器にいくつかのお菓子が載っているときは、自分の分を取って次の人にまわします。亭主が「どうぞお菓子をお取り下さい」と勧めたら、菓子器を隣の人の方に少しずらして「お先に頂戴します」と挨拶をします。これを受けて、次の人が「どうぞ」と返すと和やかな雰囲気が出ます。次に器を自分の前に置いて感謝の気持ちをこめて「頂戴します」と亭主側にお辞儀をします。懐紙を取り出し、その上に黒文字（箸）でお菓子を一つ取り、その先を懐紙の角で軽く拭いて元の位置に戻し、隣の人



▲お菓子を懐紙に取る



▲次の人へ

3 お茶



▲茶托ごと取り上げて、一礼

にまわします。また自分のところで菓子器が空になったら、器を180°回して正面を向こう側に置いてください。

お菓子を取っても、すぐに食べてはいけません。(ここがお抹茶と違うところです。) 自分の前(左寄り)に置いておき、お茶を待ちます。



▲空になったら、向きを変えて、置いておく

煎茶道では原則、お茶は2煎(2回)出ます。お菓子の前にまず1煎頂きます。

お茶が運ばれてきたら、お菓子の右横に置きます。茶碗を茶托(下のお皿)ごと取り上げて一礼し、一旦、茶托を下に置きます。それから利き手で茶碗を取り上げ、もう一方の手



▲お菓子の前にまず1煎



▲ 2煎目を出してくれる人に配慮し、寄せて置いておく



▲ 2煎目を飲み終わった後、このように茶碗を伏せる流儀もあります。

を下に添えてお茶を飲みます。飲み終わったら、茶碗を出された位置に返します。この時、まわりの客と茶碗を近づけておくとい良いでしょう。こうしておくと、亭主側はスムーズに2煎目を注ぐことができます。茶碗を戻したら、ここでお菓子を食べして下さい。

次に2煎目のお茶が出されたら、1煎目と同じようにしていただきます。飲み終わったら、空いた茶碗を出された位置に返します。この時もやはり、茶碗を下げる人に配慮して寄せておくとい良いでしょう。(2煎目は茶碗を茶托に伏せて返す流儀もあります。)全員が飲み終わり茶碗がすべて下げられたあと、最後の挨拶があり、客は揃って退席します。

(この説明は、流派によって、少し異なる場合もあります。)

4 最後に

煎茶席も抹茶席同様、決して堅苦しいものではありません。雰囲気を楽しみながら、おいしいお茶をいただいでください。

雑学

煎茶道

煎茶道は、江戸時代に隠元禅師により始められました。隠元禅師とは中国明王朝の禅僧で、將軍家綱に招かれて宇治に黄檗山萬福寺を開いた人物です。

中国明王朝では煎茶は最新の流行だったのです。当時の日本の文人たちもそれを真似て、香り高い煎茶を味わいながら詩を作り、絵を描き、学問を語り、人生を語る風雅の世界を楽しんでいました。これを煎茶趣味、文人趣味と呼びました。

江戸時代中期になると、売茶翁という人が、それまで中国文化の模倣の域を出なかった煎茶趣味の世界に独自の方向を示していきました。また売茶翁の煎茶三昧の生活は多くの文化人に影響を与えました。以降、煎茶は江戸や京都・大阪を中心に上流階級に広く普及していきました。

煎茶ではその経緯から、中国のお茶道具、すなわち唐具といわれる道具が現在でも珍重されています。

市民茶会へのお誘い

～春の市民大茶会・秋の市民茶会～

豊橋では、（公財）豊橋文化振興財団の主催による市民茶会を、毎年4月と10月に豊橋市民文化会館にて開催しています。例年、多くの茶道団体がお茶席を設けるにぎやかなお茶会です。どなた様もどうぞお気軽に足をお運びください。（開催日等は、広報紙「豊橋文化団体通信」や「広報とよはし」等でお知らせします。）

また、豊橋公園内にある三ノ丸会館では、豊橋茶道クラブ所属の流派による「月例茶会」が毎月第1日曜日に開催されております（4、8、10月をのぞく）。さらに本格的なお茶会を楽しみたい方はぜひお越しください。



▲秋の市民茶会（豊橋市民文化会館）



▲三ノ丸会館

公益財団法人 豊橋文化振興財団

TOYOHASHI CULTURAL FOUNDATION

〒440-0887 豊橋市西小田原町 123 番地 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT
TOYOHASHI ARTS THEATRE
123 Nishiodawara-cho, Toyohashi City, Aichi Pref. Japan
TEL:0532-39-5211 FAX:0532-55-8192 <http://www.bunzai.or.jp>